

「援助関係者のネットワーク強化を目的としたレセプション」

2018年3月5日、在ヨルダン日本国大使公邸において、柳大使主催により在アンマンの国連専門機関代表と邦人職員、ヨルダン政府、日系NGO関係者約50名を招いたレセプションが開催されました。

シリア危機の勃発から約7年が経過した現在においても、ヨルダンには依然として約130万人のシリア難民が滞在していると言われており、難民に対する人道支援が継続されています。

日本は、難民に対する人道支援のみならず、難民の自立や受入国の経済発展を支える開発支援を同時進行で実施する「人道と開発の連携」アプローチを推進しており、ヨルダンにおいても人道支援のみならず、難民受け入れコミュニティでの給水整備、廃棄物管理、職業訓練等を支援しています。本レセプションは、人道援助機関と開発援助機関の連携強化が必要との考えの下、様々な援助関係者間のネットワーク強化を目的として開催されました。

ペダーセン国連常駐調整官



アル・ハディッド外務省
国際機関局長による挨拶

